

日本と海外の英語教育

宮城県仙台第三高等学校 46班

1. 背景と目的

台湾・台中の生徒との交流で自分たちのスピーキング能力の低さを実感した。Education Fast (EF)によると、英語能力指数という英語のテストのスコアを元に作られた指数において、日本は英語能力が低いという結果が出ていた。アジアのなかでも英語力の高い韓国を参考にして、英語力を上げるための教育の方法を提案することを目的とした。



なぜ韓国なのか、、、

日本と近い条件下で調べる。
・英語が第二言語である
・島国である(半島に位置する国である)
・アジアの国である
・日本よりも英語能力が高い
以上のような特徴がある韓国を選んだ。

2. 研究方法

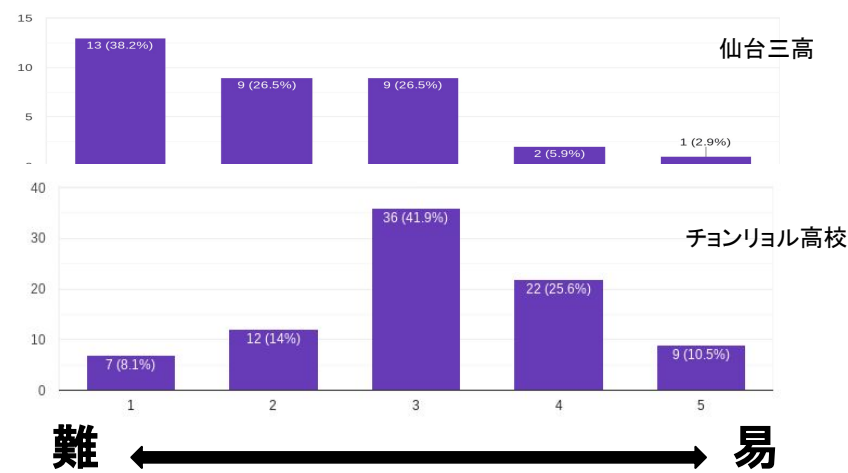
- 論文などでの調査で日本との英語教育や生徒の英語に対する意識を比較する。
- 日本の高校生、韓国の高校生を対象にしてアンケートを実施し、意識の違いなどの傾向を読み取る。
- 外部の会社などにインタビューを行い専門家の方からの意見を聞く。

3. 調査内容と結果

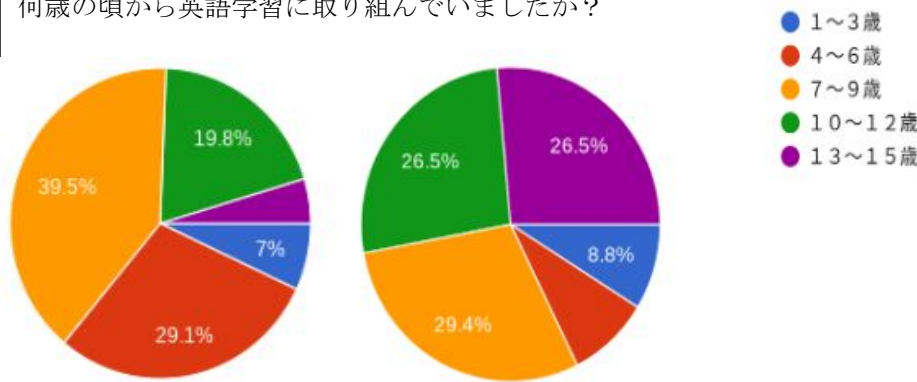
(1)今回我々仙台三高と交流のある韓国のチョンリョル高校の高校生にアンケートを実施した。内容はいつ頃から英語学習を始めたか。また、それがどんな内容であったかなどについてである。

<アンケート内容とその結果>

学校の授業の難易度ついて日頃どのように感じているか。



何歳の頃から英語学習に取り組んでいましたか？



チョンリョル高校生

仙台三高生徒

<考察>

韓国の生徒は授業の難易度に関してちょうどいいと答えている人が一番多かった。また、英語学習を始めた年齢も三高の生徒よりも早い人が多かった。

(2)株式会社ISAへのインタビュー

<インタビューからの考察>

- 英語力を伸ばすには、学校で学習した文法を会話で使ってみるなど、アウトプットの機会を増やす。
- 完璧な文法で発音よく話すだけが全てではない。発信力やディスカッション能力が最も重要となる。
- 外国人と話して、表現の細かなニュアンスの違いを感じる経験も大切。
- 自分自身が英語でしか話が通用しない場面で「悔しさ」を感じることが大きく成長させる。(自分たちの国の歴史や文化について母国語でも返事ができないような場面を味わうことが必要だ。)

4. まとめ・結論

<日本人がスピーキングが苦手な理由・改善点>

- 英語で話すことを求められる機会が少ない。
- 日本の大学入試にはスピーキングテストがないため、話すことをおろそかにしている。
- 授業でのスピーキングの割合が少ない。
- 学校の授業内でのスピーキングだけでは足りないため、自主的に音読を行うなど自分でできることをしていくことが大切。

<考察>

- 英語習得には始める年齢が大きく関わる。
- 韓国との授業内容は日本と変わらない。

<英語力を伸ばす方法についての結論>

- 英語を一つの教科として学ぶのではなくひとつのコミュニケーションツールとして学ぶことが大切。
- 学校での英語教育では、ただ英語を教えるのではなく、もっと基礎の部分を教えた方がよい。
- 自分の意見を発信する力やディスカッション能力を鍛えることが必要。
- ALTとのディスカッションをもっと積極的に授業に組み込むことが重要。

<探究活動から学んだこと>

探求活動を通して、物事をいろいろな視点から考える能力を身につけることができた。またこの探究活動で培った能力を活かしつつ、大学でも自分の興味のある分野を積極的に探求していきたい。

参考文献

- 1) 小学校での英語教育に関する研究 前田隆子
- 2) 公立小学校での英語教育の現状と課題 脇本紀子
- 3) EF EPI 英語能力指数
<https://www.efjapan.co.jp/epi/>

- 4) 日本 の 英 語 教 育 の 問 題 点 は ? 海 外 と の 比 較 と 課 題 を カバ ー す る 方 法 !
http://www.winbe.jp/column/column_16/
- 5) 大学入試を変えればすべてが変わる
<https://toyokeizai.net/articles/-/11919?display=b>